



総合資料館だより

2016. 1. 1 No. 186

「京の記憶アーカイブ」を公開



「若杉家文書」



「舟弁慶」

2015年11月4日より、新データベースシステム「京の記憶アーカイブ」を公開しました。

これまでの図書資料の目録検索機能に加え、新たに古文書(こもんじょ)、行政文書、写真資料等の目録が一括検索できるようになりました。

また、当ウェブサイトでは、約17万点のデジタル画像を公開しています(12月末現在)。今号表紙の写真「若杉家文書」・「舟弁慶」も、<画像ギャラリー>でご覧いただくことができます。

他にもさまざまなコンテンツを備えていますので、ぜひ一度アクセスしていただければ幸いです。

一部例外はありますが、すべてのコンテンツは自由にご利用いただけます。利用方法の詳細は、当ウェブサイト<利用案内>で説明しています。 「京の記憶アーカイブ」<http://www.archives.kyoto.jp/>

目次	「京の記憶アーカイブ」を公開	1
	知事年頭あいさつ	2
	ユネスコ世界記憶遺産登録 記念コラム	3
	歴史資料課の窓から	4
	文献課の窓から	6
	最近の収集資料から	8
	友の会事務局から、利用案内	10

平成28年知事年頭あいさつ

「文化創生」から新たな京都を

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

昨年7月には、長年の悲願であった京都の南北軸、京都縦貫自動車道が34年という長い歳月をかけてようやく全線開通しました。京都全体に大きな流れを創るこの大事業の完成に尽力された全ての方々に、心からお礼を申し上げます。

この開通を期し北部7市町においては、4カ月にわたり「海の京都博」を開催し盛り上げていただきましたことに対しましても感謝申し上げます。

また、昨年は琳派400年記念事業、さらに国宝「東寺百合文書」と第二次世界大戦後のシベリア抑留者等の引き揚げ記録「舞鶴への生還」の世界記憶遺産登録。そして「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城」の日本遺産への認定など北から南まで京都の持つ豊かな文化を示すことが出来た一年でした。

しかし、地方消滅とまで言われる少子・高齢化問題や、雇用情勢が好転すると顕著になる人材不足。円安により輸出産業が伸びる一方、内需型中小企業は原材料高に苦しみ、伝統産業も広幅織物は伸びたのに対し着物の需要はまだ低迷、さらにはTPP問題で農林水産業には懸念が広がるなど、さまざまな課題が改めて浮き彫りになった年でもありました。

京都流の地域創生へ

こうした課題の克服と同時に京都の力を最大限に発揮して、京都の将来を切り拓くことができるよう、昨年10月、「京都流 地域創生～『文化創生』から新たな生活を～」をテーマに「京都府地域創生戦略」を策定しました。

こうした問題の背景には東京一極集中や、大都市や大企業志向に代表されるような価値観の固定化が進む中での格差の広がりがあり、社会が柔軟性を失いつつあるのではという危惧があります。今、京都から、少子化問題・子供の貧困対策、若者の就労支援などでもう一度「人づくり文化」を確立させ、マネーゲームにはない真の豊かさを取り戻すために産学公の力を結集し、技術力に裏打ちされたものづくりの素晴らしさを広め、京都の豊かな農林水産資源を六次産業へと発展させる時代を踏まえた「産業文化」を育成し、京都ならではの伝統・文化に恵まれた大都市と豊かな自然をもつ田園の両方の魅力を楽しむことができる、ある面贅沢な「京都ぐらし文化」を創生させなければなりません。そしてこうした文化を統合させ、京都が多様性に富み、躍動的な地域として魅力を世界に発信できる「地域づくり文化」へと昇華させていくことが必要だと考えています。

これからの数年は京都の将来を左右する大事な時です。地域創生は他人事ではなくまさに私たちの未来です。

京都には、どこにも負けない歴史と伝統があります。さらには世界水準の大学・研究機関、高い技術力を持った中小企業の集積、豊かな自然環境など魅力的な資源や資産をたっぷり有しています。

「もうひとつの京都」の発信

昨年は「海の京都」を見ていただきました。そして今年は「森の京都」です。京都府の74.3%は森林であり、森は私たちの水を清め、空気をつくり、災害を防ぎ、さらには貴重な木材資源を提供してくれます。何にも代えがたい宝である京都の森の素晴らしさを皆さまとともに分かち合い、次世代に引き継ぐため、「全国育樹祭」を中心に、森の恵みを府民の皆さまに体感していただく「森の京都博」や丹波高原の国定公園の新規指定など、林業の振興と自然保護と森の文化が一体となった「森の京都スタイル」の確立を目指した地域づくりを進めることとしています。

こうした素晴らしい森林を未来に受け継いでいくための財源として、「豊かな森を育てる府民税」の導入を昨年、府議会でご議決いただきました。4月から年600円お願ひすることになりますが、どうか府民の皆さまに、この税に対するご理解をいただきたいと思ひます。

京都の未来を拓く人をつくり、地域経済を活性化させて仕事をつくり、京都への人の流れをつくる。さらには新しい交流の中で持続可能で魅力と活力のある地域をつくり、そして京都から日本を変える新たな「文化創生」。今多くの観光客が京都を目指しています。単に名所旧跡があるからだけではなく、京都の持つおもてなしの心、人を癒す環境、ほんまもんが持つ力が人々を引きつけているのだと思ひます。

今年、リオデジャネイロでの夏のオリンピック・パラリンピックが終わればいよいよ東京オリンピック・パラリンピックへの道のりが始まります。その皮切りが、秋に京都で行われる国主権のスポーツと文化の国際フォーラムです。京都の「文化創生」はいよいよ本番を迎えます。府民の皆さまのご協力を心から願ひし、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

「東寺百合文書」が世界記憶遺産に



京都府立総合資料館が所蔵する国宝・東寺百合文書が、このたびユネスコの世界記憶遺産に登録されました。昨年10月10日（土）の朝から当館で行われた記者会見において金谷浩志館長は、「東寺百合文書の資料的価値は、さらに大きく評価された」として、「国際的な注目も浴びることから、＜中略＞国内外のより多くの方々に活用していただけるよう、さらにWEBサイトの充実、展覧会や講演会の開催等の取組を進めていきたい」とコメントしました。府内外の多くの方から「登録おめでとう」のメッセージが寄せられてその喜びが実感される中、今後に向けて決意を新たにしたところです。

ユネスコのいわゆる三つの遺産事業のうち、「世界文化遺産及び自然遺産」や「無形文化遺産」は各国間の国際条約によるものですが、「記憶遺産」(Memory of the World)はユネスコの一つの事業として位置付けられています。世界の人々の記憶に止め置くべき重要なドキュメント遺産の保護と振興を目的に、1992（平成4）年に開始されました。その後、「アンネの日記」や「マグナカルタ」等の登録を受け国内でも関心が高まりましたが、日本で最初の記憶遺産として「山本作兵衛炭鉱記録画・記録文書」（福岡県田川市）が登録されたのは、2011（平成23）年5月のことでした。各国から推薦された資料を審議する「ユネスコ記憶遺産国際諮問委員会（IAC）」は2年に一度開催されますが、それから2年後の2013（平成25）年6月、「御堂関白記」（京都市）と「慶長遣欧使節関係資料」（仙台市）の2件が記憶遺産となりました。

2015（平成27）年10月4日から6日までアラブ首長国連邦のアブダビで開催された第12回ユネスコ記憶遺産国際諮問委員会では、世界各国から申請された88件の候補資料について審議が行われ、このうち47件が新たに「世界記憶遺産」の仲間入りを果たしました。日本からは東寺百合文書の他に「舞鶴への生還 1945～1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」（京都府舞鶴市）も同時に登録が決まり、これで日本の

記憶遺産は計5件となり、しかもこのうちの3件が京都府内にある資料ということになります。

ユネスコ記憶遺産の目的としては、

- 世界的に重要な記憶遺産の保存を最も相応しい技術を用いて促進すること
- 重要な記憶遺産になるべく多くの人々がアクセスできるようにすること
- 加盟国における記憶遺産の存在及び重要性への認識を高めること

の三つが掲げられています。

今回の記憶遺産登録に当たって、日本ユネスコ国内委員会はユネスコ記憶遺産選考委員会委員長談話として、「東寺百合文書については、保存・管理体制が特に優れているとともに、全点のデジタル化が完了しウェブ上で公開されていること、—ユネスコにおいても、これらの点が評価されたと考える」とのコメントを発表しています。

質・量ともに日本屈指の中世文書として、その資料的価値が広く知られている東寺百合文書ですが、やはりこの特徴的な名称にも注目が集まります。1685（貞享2）年、加賀藩第5代藩主・前田綱紀が東寺に寄進した百個（百合）の桐製文書箱に収納されて伝えられてきた、—これが名称の由来ですが、前近代の日本において既にこのような資料保存の方法が実践され、しかも機能していたということは、ユネスコが掲げる重要なドキュメント遺産保護の精神に合致しているとの評価もあります。

さらに、先述の「委員長談話」にもあるように、「適切な保存・管理体制」と「全点デジタル化・ウェブ公開」が大きく貢献したことは間違いありません。総合資料館では、1967（昭和42）年の東寺百合文書受け入れ以降、様々な取組みを行ってきました。これらの延長線上に位置づけられるのがデジタル化やウェブ公開であり、多くの先人・諸先輩たちの努力が実を結んだと言っているでしょう。そして、次の時代へと繋いでいくために、たゆまぬ努力が求められています。

（歴史資料課 小森浩一）

行政文書もレファレンス協同データベースに参加しています

レファレンス協同データベースとは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調べ物のためのデータベースです（<http://crd.ndl.go.jp/reference/>）。各館に寄せられる調査・研究に関する問い合わせの回答を集積し、それを共有化することを目的としています。当館では2004年3月から参加し、文献課の図書資料の質問回答事例を登録してきました。2014年の1年間には資料館のデータベースに9万件以上のアクセスがあったため、国立国会図書館長より御礼状をいただきました（2年連続4回目の礼状）。

このデータベースに、2015年3月から歴史資料課の行政文書（京都府の公文書）の回答事例も登録を始めました。2015年12月現在、行政文書関連では15件の事例を載せています（資料館全体で325件）。今回の歴史資料課の窓からでは、このデータベースに登録する業務について紹介します。

表1 レファレンス協同データベースに登録している行政文書関連の質問事例

①明治20年頃の京都府の判任官十等の月俸を知りたい。 (京資-302)
②京都府内の各郡に置かれていた歴代の郡長とその在職期間について知りたい。 (京資-303)
③京都府は日本で最初に路面電車が走った都市だと聞いた。路面電車敷設の計画の経緯が書かれている資料を見たい。 (京資-304)
④明治7年に架けられた鴨川の四条大橋について、工事の内容が記載されている資料を見たい。 (京資-305)
⑤明治10年に開通した京都～大阪間の鉄道に関する土地買収や建設工事について書かれている資料を見たい。 (京資-306)
⑥明治初年に京都府が始めた童仙房開拓事業について、開発の経過が書かれている資料を見たい。 (京資-307)
⑦明治初年における御土居の開墾についての資料を見たい。 (京資-310)

⑧明治初期に架設された電信線について、府内のどこを通過していたかを知りたい。 (京資-311)
⑨明治元年頃の木津川付替工事についての資料はあるか。 (京資-312)
⑩明治24年に発生した濃尾地震についての資料はあるか。 (京資-313)
⑪アジア・太平洋戦争末期における京都の寺院の仏像疎開に関する資料はあるか。 (京資-319)
⑫明治初期に開館した京都博物館について知りたい。 (京資-320)
⑬河原町丸太町の観世能楽堂が建物疎開にあったことについて記載されている資料を見たい。 (京資-321)
⑭JR奈良線が平成28年度に開業120周年をむかえる。JR奈良線に関する土地買収や建設工事について書かれている資料はあるか。 (京資-323)
⑮明治5年に盂蘭盆会の送り火が禁止されたことがあると聞いた。内容のわかる資料を見たい。 (京資-324)

() 内はレファレンス協同データベースの管理番号

レファレンス協同データベースに登録するまで

レファレンス協同データベースに登録するまでには幾つかの作業をします。日々、利用者の方からは色々な質問が出てきます。その場ですぐに回答できる質問や、回答までに時間をいただく難しい質問もあります。時間をかけて調べた結果、資料がなかったり、答えがでなかったりすることもあります。そういった質問の中からレファレンス協同データベースに登録するものを選んでいきます。選んでいく基準は、①多くの方から寄せられる一般的なもの（鉄道関連や盂蘭盆会など）、②京都府の特徴的な出来事を扱ったもの（童仙房開拓や御土居開墾など）、③館職員も調査するまで知らなかった意外なものなど、一つに片寄らないように選んでいます。

吉田初三郎鳥瞰図に見る社寺参詣—お伊勢参りを中心として—

はじめに

年も改まり、年始には各地で初日の出が話題となり、また、幸先よく新年の御来光に浴された方もあるかと思えます。ここでは、当館所蔵の太陽や日の出を描いた吉田初三郎の作品紹介を通じて、昭和初期の世相を垣間見たいと思えます。

一昨年は初三郎生誕から130年でした。初三郎式と言われる独特の構図による鳥瞰図は大正から昭和戦前期に各地で観光案内用として、携帯サイズに印刷され、一世を風靡しました。当館では、そのうち約270点を所蔵しています。初三郎式鳥瞰図は時代により変化が見られます。大正期にあっては低い視点から描かれ、全体に黄色味が強いものとなっています。一方、昭和10年(1935)前後になると、高い位置からの構図で淡い色が用いられています。

さて、当館所蔵の初三郎の鳥瞰図をよくみると、空に太陽が描かれたものは、約270点のうち、わずかしかありません。また、そのほとんどが伊勢付近を描いたものです。

伊勢内宮の祭神は太陽を神格化した天照大神です。また、伊勢には二見浦の夫婦岩や宇治橋、朝熊(あさま)山など、日の出の名所もあります。これらの関係で初三郎が伊勢といえ、日の出や太陽を連想し、これを鳥瞰図に描いたのかもしれない。また、初三郎の鳥瞰図は発注者の広報物の要素を持っていました。従って、伊勢と日の出や太陽は初三郎の突飛な独創ではなく、昭和初期の人々の共通認識だったとも考えられます。

お伊勢参りと私鉄と鳥瞰図

それでは、具体的に日の出を描いた伊勢の鳥瞰図を紹介します。『朝熊岳：登山記念鳥瞰図』には、海を隔てて富士山とその左上に大きな太陽が描かれています。現在のお伊勢参りは、内宮、外宮、二見浦などを参ることが一般的です。

しかし、江戸時代には「伊勢へ参らば朝熊を駆けよ、朝熊駆けねば片参り」とまで言われ、内宮の背後に控える朝熊山山頂の金剛證寺も重要

な位置を占めていました。また、朝熊山頂からは、気候などの条件が揃えば、富士山を望めることが知られています。初三郎の鳥瞰図は、この朝熊山の金剛證寺や大正14年(1925)に開通した山頂と麓を結ぶケーブルカーを中心に据えています。ケーブルカーは朝熊登山鉄道により開通しました。しかし、同社は昭和3年には三重合同電気と合併します。鳥瞰図には上書きの紙が貼られたものの、はがされ、かすかに「朝熊登山鉄道」と読み取れる箇所があります。この貼り付けが旧社名を上書きするためのものかどうかはわかりませんが、少なくとも、題材の時代は、開通の大正14年から社名がなくなる昭和3年までの間ということになります。

次に紹介する鳥瞰図は「伊勢電鉄」という当時存在した鉄道会社が昭和2年に出版した『伊勢電鉄御案内』です。伊勢湾に面して津新地と四日市を結ぶ路線を中心に描きつつ、内宮、外宮、二見浦、朝熊山を遠方に配した構図となっています。さらに伊勢湾東方の水平線から大きな太陽が顔を出しています。この鳥瞰図には、「津・松阪間複線開通」と「四日市桑名間複線開通」という印が押されています。もともと、鳥瞰図には、津・松阪間、四日市・桑名間の計画線が描かれていましたが、印は両区間の開通後に押されたものと考えられます。また、鳥瞰図の題字に「参宮近道」とあり、同社が伊勢参りの旅客輸送を狙っていたことがわかります。実際、同社は昭和5年暮れには松阪から伊勢(山田)の大神宮前まで延長開業を果たしています。しかし、経営は苦しく、昭和11年には、津以南で並行していた近鉄の前身である参宮急行電鉄に吸収されました。なお、並行区間は松阪以南が戦時中、以北が昭和36年に廃止されています。

ケーブルカーと社寺参詣

朝熊山のケーブルカーの経営を引き継いでいた「合同電気」が昭和6年頃に出版した『合同電車沿線御案内』にも朝熊山と遠景にある富士山

の間に太陽が描かれています。この鳥瞰図は内宮、外宮、二見浦、金剛證寺が建築物までわかりやすく描かれています。また、徒歩で2時間以上を要していた朝熊山登山を、10分程度に短縮したケーブルカーも大きく描かれています。

ケーブルカーは大正から昭和にかけて、各地で近世以来の参詣参拝者で賑わっていた山上の社寺と麓を結ぶために開通しています。京都近郊でも比叡山、愛宕山、男山、成相山、妙見山、生駒山、信貴山、高野山などの例があります。初三郎の鳥瞰図にも、これらが描かれているものが多数あります。しかし、ケーブルカーの多くは戦中、軍用の鉄材供出のため、撤去されました。戦後、復活をみたものもありますが、伊勢の朝熊山や京都の愛宕山のケーブルカーのように、復活することなく、朽ちた遺構を今にさらしているものもあります。また、復活はしたものの、江戸の名残があった戦前と比べ、戦後の価値観の変化などによる参詣参拝者の減少や自動車の普及により利用者がまばらになった路線もあります。しかし、正月のこの時ばかりは、各路線とも初詣の利用者で賑わっているのではないのでしょうか。

おわりに

さて、紹介しましたものも含め、初三郎の鳥瞰図には社寺が比較的、大きく描かれる傾向があります。発行元の多くが鉄道会社であったことか

ら、社寺は鉄道会社にとって、旅客誘致のための重要な施設であったことがうかがえます。明治維新から60～70年しか経ていない当時、江戸時代後半に出版された名所図会の世界同様、各地の社寺を詣でることが多くの人々にとって楽しみであり、それを身近なものにした鉄道との組み合わせが初三郎の鳥瞰図の世界にはあります。ここで資料紹介をきっかけとして、当館で所蔵する初三郎の鳥瞰図をご覧いただき、身近に接していただければ幸いです。

(文献課 若林 正博)

参考文献

近畿日本鉄道編刊『近畿日本鉄道100年のあゆみ:1910～2010』、2010

吉田初三郎著『朝熊岳：登山記念鳥瞰図』、観光社、[1925]

吉田初三郎著『伊勢電鉄御案内』伊勢電鉄、1927

吉田初三郎著『合同電車沿線御案内』合同電気、[1931]



『朝熊岳：登山記念鳥瞰図』部分拡大
朝熊山上の施設と金剛證寺



『合同電車沿線御案内』部分拡大
夫婦岩、ケーブルカー、朝熊岳、内宮



『伊勢電鉄御案内』部分拡大 伊勢湾を囲むように走る伊勢電鉄と伊勢神宮周辺(右上)、中央から日が昇る



最近の収集資料から（平成27年9月～11月）



◆図書資料

〈京都〉

越後上杉氏と京都雑掌 小林健彦著 岩田書院 2015 357p (戦国史研究叢書13)

海の「京都」 日本琉球都市史研究 高橋康夫著 京都大学学術出版会 2015 10,1150p

地理学教室80年史 1984-2014 立命館大学文学部地理学教室編刊 2014 4,86p 寄贈

淀南の歴史 淀南地誌の会[編]刊 植村善博監修 2014 160p

龍谷大学経営学研究科三十年史 龍谷大学経営学研究科三十年史刊行委員会企画・編集 龍谷大学経営学研究科 2014 13,213p 寄贈

京都の花街 芸妓・舞妓の伝統美 溝縁ひろし写真 光村推古書院 2015 303p

京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業報告書 平成26年度 京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業実行委員会編刊 2014 50p

京都府レッドデータブック2015 第1巻-第3巻 京都府自然環境保全課編刊 2015 3冊

京都府の古特許 第1巻-第5巻 ネオテクノロジー 2015 5冊 (近代化への夜明け前 明治の発明から「地域」を見る)

鴨川の歴史と美化活動総合資料集(保存版) 結成50周年記念事業 鴨川を美しくする会[編]刊 2014 81p 寄贈

京の暖簾と看板 竹本大亀文 渡部巖写真 光村推古書院 2015 191p

〈人文〉

日本の図書館 統計と名簿 2014 日本図書館協会図書館調査事業委員会編集 日本図書館協会 2015 511p

図書館情報学教育の戦後史 資料が語る専門職養成制度の展開 中村百合子[ほか]編著 ミネルヴァ書房 2015 8,1039p

立太子 1 宮内庁書陵部編纂 宮内庁 2015 3,384p (皇室制度史料 儀式) 寄贈

余暇・レジャー&観光総合統計 使えるデータ満載!! 2016-2017 三冬社編集部編集・制作 三冬社 2015 334p

保育白書 2015年版 全国保育団体連絡会・保育研究所編 ちいさいなかま社 2015 308p

桜 野生のサクラいろいろ 栃木県立博物館編刊 2015 95p 寄贈

特殊神饌についての研究 吉野亨著 武蔵野書院 2015 9,325p 寄贈

お水取り 特別陳列 奈良国立博物館編刊 2015 67,4p 寄贈

藤原鎌足と阿武山古墳 高槻市教育委員会編 吉川弘文館 2015 10,249p

室町廷臣社会論 井原今朝男著 塙書房 2014 5,602,25p

豊臣と徳川 大坂の陣400年記念 特別展 大阪城天守閣編刊 2015 139p 寄贈

幕藩政アーカイブズの総合的研究 国文学研究資料館編 思文閣出版 2015 7,490,4p 寄贈

明治・大正・昭和 絵葉書地図コレクション 地図に刻まれた近代日本 鈴木純子著 明石書店 2015 173p

あこがれの空へ 民間パイロットの先駆け武石浩玻 特別展 玉川里子編 水戸市博物館 c2015 79p 寄贈

日本美術年鑑 平成25年版 東京文化財研究所企画情報部編 国立文化財機構東京文化財研究所 2015 4,426p 寄贈

Parasophia 池澤茉莉[ほか]編集 京都国際現代芸術祭組織委員会 2015 350p 寄贈

世界遺産データ・ブック 2016年版 古田陽久・古田真美著 世界遺産総合研究所企画・編集 シンクタンクせとうち総合研究機構 2015 172p

桃山時代の狩野派 永徳の後継者たち 京都国立博物館・毎日新聞社編集 毎日新聞社[ほか]刊 2015 299,11p 寄贈

北斎娘応為栄女集 久保田一洋編著 藝華書院 2015 148p

福本潮子作品集 藍の青 1977-2015 福本潮子著 外館和子・姫野希美・八木光恵編 赤々舎 2015 221p

狂言史の基礎的研究 続 関屋俊彦著 関西大学出版部 2015 12,817p

〈官庁〉

農林水産京カプラン セカンドステージ 京都府農林水産部農政課[編]刊 2015 71p

看取り支援施設ガイドブック 京都地域包括ケア推進機構看取り対策プロジェクト[編]刊 2015 78p

寄付ラボ 新しい寄付文化のカタチを提案する。 京都市市民活動総合センター編刊 2015 48p 寄贈

京都文化芸術プログラム2020 千年の都に世界がふれる 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課 2015 27p 寄贈

和のちから 京丹後市10年の歩み 多彩な和がつながり築く未来の京丹後市 京丹後市役所 [2014] 19p 寄贈

地域ハンドブック 地域データと政策情報 2015年度版 日本政策投資銀行地域企画部編 日本政策投資銀行 2015 313p 寄贈

大都市比較統計年表 平成25年度 大都市統計協議会編刊 2015 451p 寄贈

福祉行政報告例 平成25年度 厚生労働省大臣官房統計情報部編 2015 532p

全国大学一覧 平成27年版 文教協会 2015 1040p

漁業就業動向調査報告書 平成26年 農林水産省大臣官房統計部編 農林統計協会 2015 43p

労働生産性と雇用・労働問題への対応 厚生労働省編 音羽印刷 2015 258p (労働経済白書 平成27年版)

◆文書資料(新しく公開する資料)

稲垣家旧蔵資料 漆器老舗美濃屋稲垣家の旧蔵資料。文明7年(1475)～明治15年(1882)。深草村ほかその周辺の村々の明治12～15年の村誌4点、近世の京都の町の基本情報をまとめた「下京古町写」1点、蓮如の五男実如の「御文」1点、漆器老舗「美濃屋」の引き札1点。村誌は京都府へ提出の皇国地誌の原稿案で、京都府地誌編纂掛の補筆・訂正指示等の書き込みもあり、編纂経過の一端を知ることのできる資料である。寄贈。

日誌(平成27年9月～12月)

10. 1 (木)～11月8日(日)
東寺百合文書展－今に伝わる
2万5千通－(資料館2階展示
室)
10. 10 (土) 東寺百合文書、ユネスコ世界
記憶遺産に登録決定
10. 12 (月・祝)
第2回 国際京都学シンポジウ
ム－ユネスコ世界記憶遺産登
録に向けて－「東寺百合文書
の現在と未来」(府立大学)
10. 28 (水)～30(金)
京都府庁2号館1階ロビー展
示「明治・大正の府庁界隈－
近代の黎明「あさが来た」の
時代－」
11. 4 (水) 新データベース「京の記憶アー
カイブ」公開
11. 7 (土) 寺子屋講座「京都の歴史を歩
こう!－下鴨編－」
11. 12 (木) 国立国会図書館デジタル化資
料送信サービス開始
12. 1 (火)～27(日)
写真パネル展示『明治・大正の
府庁界隈など－近代の黎明「あ
さが来た」の時代～大正大礼
(1915)－』(資料館2階展示室)

友の会事務局から

今年の行事(見学会及び現地講座等)のご案内が大変遅くなっており、誠に申し訳ございません。今年度の見学会及び現地講座については、平成28年2月～3月に計画しておりますので、ご了承願います。日程が確定次第ご案内しますので、よろしく願います。

問合せ先:友の会事務局(TEL 075-723-4831)

メールマガジンのご案内

資料館では隔週でメールマガジンを発行しています。資料館イベントの情報や、新着図書案内、資料館ならではの京都関係のコラムを発信しています。

登録は下のURLからお願いします。

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

※「まぐまぐ」からのオフィシャルメールの解除は、登録後に送られてくる「メルマガ読者登録完了のお知らせ」から可能です。

古文書相談

歴史資料課

Tel 075-723-4834

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

[1月～3月の休館日]

12月28日(月)～1月4日(月) 年末年始、

1月11日(月・祝)、1月13日(水)、

2月10日(水)、2月11日(木・祝)、

3月1日(火)～11日(金)資料整理期間、

3月21日(月・祝)

お詫び

資料館だよりNo.185では、資料整理予定を12月中と記していましたが、変更となりましたことをお詫び申し上げます。

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、**北8**・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。